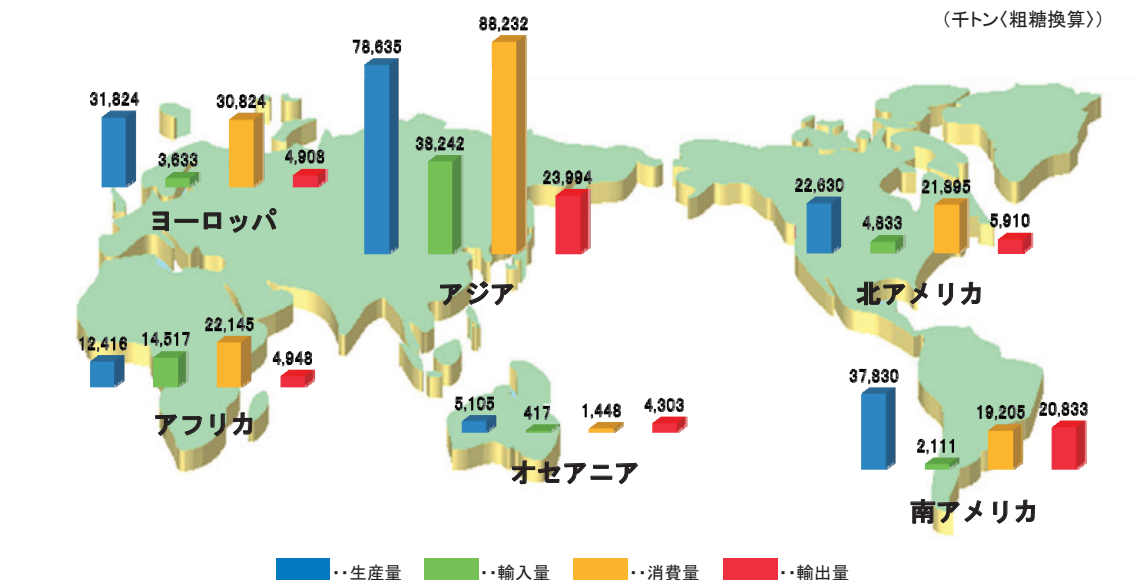


砂糖の国際需給

調査情報部 坂上 大樹

1. 世界の砂糖需給（2018年9月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給（2018/19年度予測値）



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, September 2018」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：ヨーロッパには、EU加盟国とロシアほか17カ国を含む。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン〈粗糖換算〉、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1989/90	29,879	108,244	27,973	105,790	29,126	31,180	29.5
1994/95	41,641	116,726	31,803	112,686	32,672	44,812	39.8
1999/2000	62,812	133,133	36,409	127,942	39,734	64,678	50.6
2004/05	63,697	144,251	47,084	146,907	50,426	57,700	39.3
2009/10	54,979	160,315	56,023	164,755	56,244	50,317	30.5
2013/14	62,957	184,058	58,323	175,811	61,044	68,483	39.0
2014/15	68,483	183,717	59,707	177,488	62,081	72,338	40.8
2015/16	72,338	175,955	67,776	180,125	69,077	66,868	37.1
2016/17	66,868	180,442	68,525	179,979	69,937	65,919	36.6
2017/18 (2018年9月予測)	65,919	193,649	64,777	180,458	67,830	76,057	42.1
2018/19 (2018年9月予測)	76,057	188,440	63,753	185,014	64,896	78,339	42.3

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, September 2018」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：2017/18年度および2018/19年度は予測値。

注3：期末在庫量は（期首在庫量＋生産量－輸入量－消費量－輸出量）。

注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

「世界の砂糖需給」「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの報告となっていますので、次回は2019年1月号の掲載予定となります。直近の内容は2018年10月号をご参照ください。

「世界の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_001823.html

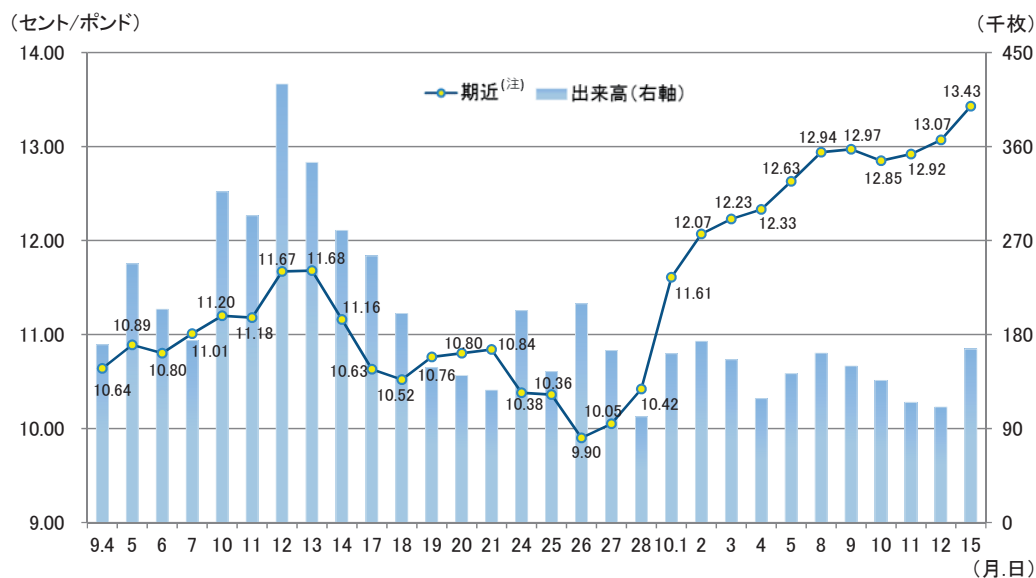
「主要国の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_001824.html

2. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖相場の動き（9/4～10/15）

～ 2008年以来の低水準まで下落するも、半月で約3セント上昇～

図2 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所（ICE）
注：9月は期近10月限、10月は3月限の値。

ニューヨーク粗糖先物相場（9月限）2018年9月の推移を見ると、ブラジルがサトウキビをバイオエタノール生産に仕向ける動きを加速させていることなどから、7日は1ポンド当たり11.01セントと1カ月ぶりに11セント台に回復した。その後、EUでの深刻な干ばつがてん菜生産に影響を及ぼすとの懸念から、12日は同11.67セントまで値を上げた。14日は、増産が見込まれるインドが新たな輸出支援策を発表するのではないかと観測が広がり、同11.16セントまで値を下げ、その後も続落した。19日は4日ぶりに反発し、同10.76セントの値を付けたが、根強い供給過剰への懸念から24日には再び下落に転じ、同10.38セントまで値を下げた。そして、26日はインド政府が想定を上回る規模の輸出支援策を打ち出したことから、同9.90セントとついに10セント台を割り込み、2008年以来の低水準まで下落した。

9月に入り期近限月が切り替わった1日は、前週

末比1.19セント高の同11.61セントまで上昇し、今年最大の上げ幅を記録した。なお、前週末の同じ月限（3月限）の終値と比べると0.41セント高となる。翌2日は、リアル高や原油価格の上昇などに支えられ、同12.07セントと続伸した。7日に投開票を控えるブラジルの大統領選挙直前の世論調査で、支持率トップの候補がバイオエタノール政策をさらに押し進める可能性があるとの見方が広がったことから、3日も値を上げ同12.23セントとなった。週明けの8日は、ブラジルの大統領選挙の結果がほぼ予想通りとなり、安堵感などから総じて上昇した金融市場を映して、同12.94セントまで値を上げた。その後、もみ合いながら12日に同13.07セントまで上昇し、15日はリアル高が進行したことでブラジルの砂糖輸出が抑制されるとの見方から、同13.43セントまで値を上げ2018年3月の水準まで回復した。

（注）1ポンドは約453.6グラム、セントは1米ドルの100分の1。

3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2018年10月時点予測）

本稿中の為替レートは2018年9月末日TTS相場の値であり、1米ドル＝115円（114.6円）、1インド・ルピー＝1.73円、1ユーロ＝134円（133.6円）、1ポーランド・ズロチ＝32円（32.2円）である。

ブラジル

2018/19年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：869万ha（前年度比1.3%増）

生産量：5億9500万トン（同7.2%減）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：3170万トン（同23.6%減）

輸出量：2049万トン（同33.9%減）

2018/19年度、砂糖生産量、輸出量ともに大幅に減少する見込み

LMC International（農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社）の2018年10月時点の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2018/19砂糖年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は、869万ヘクタール（前年度比1.3%増）とわずかな増加が見込まれている。一方、生産量は、北東部地域の全域と中南部地域の一部で高温少雨が続き、生育の遅れが見られることから、5億9500万トン（同7.2%減）とかなりの減少が見込まれている（表2）。砂糖生産量は、サトウキビの減産に加え、国際価格の下落などからサトウキビをバイオエタノール生産に仕向ける動きが加速すると予測されるため、3170万トン（粗糖換算〈以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算〉、同23.6%減）と大幅な減少が見込まれている。輸出量は、主要輸出相手国である中国が追加関税措置を実施していることなども影響して、2049万トン（同33.9%減）と大幅な減少が見込まれている。

メルコスール、韓国とのFTA交渉を開始

ブラジルなど南米4カ国で構成される南米南部共同市場（メルコスール）と韓国との自由貿易協定

（FTA）の第1回目の交渉会合が9月中旬、ウルグアイで開催された。現地報道によると、今回の会合では今後の進め方の確認や双方の関心事項などについて幅広く意見交換が行われたとみられる。この交渉でメルコスール側は、農産品の市場アクセス拡大を優先事項として掲げている。中でもブラジルは、韓国にとって第3位の砂糖輸入相手国であるものの、2015年に発効した韓国・豪州FTAにより第1位の豪州に大きく水をあけられていることから、砂糖に関して大幅な関税率の引き下げまたは撤廃を求めていくものと思われる^{（注）}。

また、メルコスールの外相会合が行われた10月15日、ブラジル外務相は記者会見で、大詰めを迎えるメルコスールとEUとのFTA交渉をめぐり、ブラジル大統領選挙の結果が今後の交渉に不要な憶測や混乱を与えないよう「大統領選挙がどのような結果であっても、メルコスールとEUとのFTA交渉には何ら影響しないだろう」と述べ、年内に妥結する姿勢に変わりはないことを強調した。

（注）韓国では、粗糖（糖度99.5度未満）に対し3%の関税率（基本税率）が適用されるが、豪州産の粗糖は無税となっている。また、精製糖にあつては30%の関税率が適用され、豪州産は毎年約2%ずつ段階的に引き下げられ、最終的に無税になる（2018年現在は25.2%）。

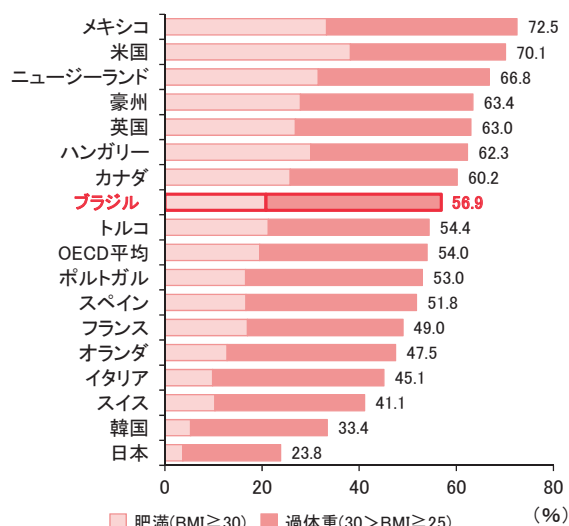
政府、食品中の糖類を削減することで食品メーカーと合意

ブラジル保健相は10月1日、飲料、ビスケット、チョコレートなどの加工食品に含まれる糖類の量を削減することで食品メーカーと合意したと発表した。今のところ具体的な削減目標は明らかにされていないが、2021年までに目標を達成するとしている。同相は、「食品メーカーとの連携は国民の健康づくりの推進に不可欠な要素であり、食品の糖類含有量の削減を通して高齢者の生活の質の向上につなげていきたい」と述べた。

ブラジルは、成人の2人に1人が肥満という状況にある（図3）。特に、高齢者の8割が肥満または過体重であるとされ、その割合は増加の一途をたどっている。これと深く関係する糖尿病などの生活習慣病の患者数も年々増加しており、今回の政府の決

定の背景には、今後高齢化が進むと見込まれる中、医療や介護などの社会保障費を抑制したいという思惑があると思われる。

図3 各国の肥満者率



資料：経済協力開発機構（OECD）、ブラジル地理統計院（IBGE）
注：BMI（Body Mass Index）= 体重[kg] ÷（身長[m] × 身長）

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

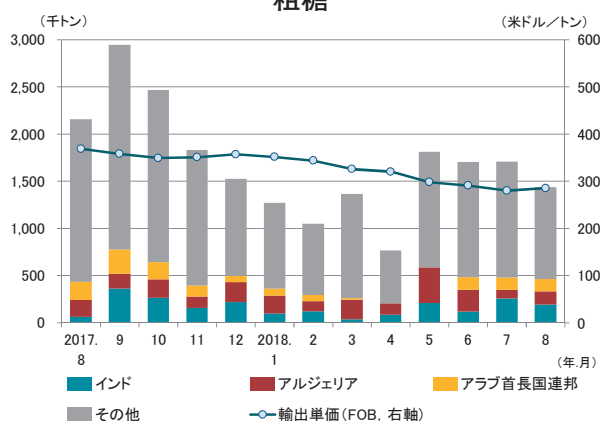
年度	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19 (9月予測)	2018/19 (10月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	8,188	8,474	8,570	8,685	8,685	1.3
サトウキビ生産量	666,824	651,841	640,860	595,000	595,000	▲ 7.2
砂糖	生産量	36,472	41,670	41,490	31,920	▲ 23.6
	輸入量	1	1	2	2	▲ 5.7
	消費量	12,057	11,502	11,100	11,211	1.0
	輸出量	26,023	30,117	30,991	20,710	▲ 33.9
	期末在庫量	739	791	193	207	▲ 0.9
	期末在庫率	6.1	6.9	1.73	1.84	1.70
						0.03 ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, October 2018」

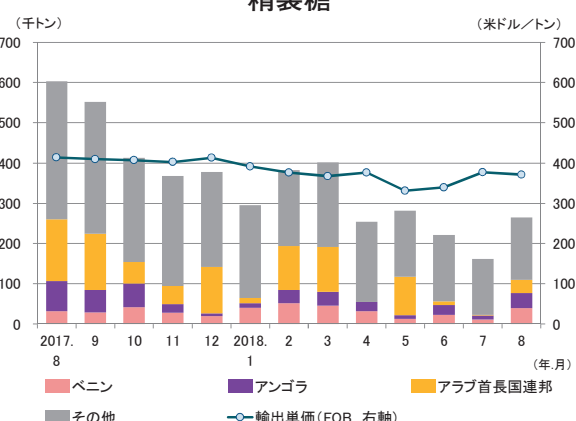
注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考）ブラジルの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移

粗糖



精製糖



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

インド

2018/19年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：512万ha（前年度比6.1%増）

生産量：3億8798万トン（同1.4%減）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：3666万トン（同5.3%増）

輸出量：355万トン（同25.4%減）

2018/19年度、砂糖生産量はやや増加する一方、輸出量は大幅に減少する見込み

2018/19砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は512万ヘクタール（前年度比6.1%増）とかなりの増加が見込まれるものの、生産量は主要生産州で4月から6月にかけて記録的な熱波に見舞われた影響で全体的に生育が停滞していることから、3億8798万トン（同1.4%減）とわずかな減少が見込まれている（表3）。砂糖生産量は、製糖歩留まり率が上昇傾向にあることなどを踏まえ、3666万トン（同5.3%増）とやや増加すると見込まれている。これにより、インドはブラジルを抜いて世界一の砂糖生産国となる公算が高まった。輸出量は、2017/18年度の見込みが前回予測から大幅に上方修正（216万トン増）された影響に加え、政府が製糖業者に対し500万トンの最低輸出義務を課すものの、生産コストが国際価格を上回る現状にあり、その実現可能性については懐疑的な見方も多いことなどを踏まえ、355万トン（同25.4%減）と大幅な減少が見込まれている。

政府、生産者への補助金の額を引き上げ

政府は9月26日、2018/19年度の生産者に交付する補助金の額を、現行のサトウキビ100キログラム当たり5.5ルピー（10円）から同13.75ルピー（24円）へ引き上げることを決定した。同政府は、同年度に適用するサトウキビの適正価格（FRP）^{（注）}を100キログラム当たり275ルピー（476円）とすることをすでに決定していることから、生産者に支払われる原料代の5%に相当する額を政府が実質的に負担することとなる。

また、製糖業者に対しては製糖工場から輸出港までの輸送に要する経費の一部を補助する。ただし、最低輸出義務も引き続き継続され、2017/18年度の倍以上の500万トンに引き上げられる。加えて、生産者に交付する補助金は、製糖業者に割り当てた輸出義務が履行されるまで交付しない旨が規定される予定であることから、製糖業者にとってはむしろ負担が増したと言える。

（注）FRPは、製糖業者の生産コストなどを勘案して定められており、この水準を下回る価格でサトウキビを買い取ることは違法とされる。生産者に補助金が交付される場合は、それに相当する額を差し引いた額が製糖業者の実質的な負担額となる。

表3 インドの砂糖需給の推移

(単位: 千ha、千トン、%)

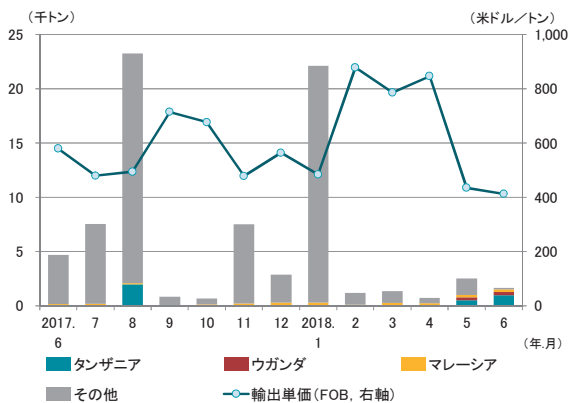
年度	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19 (9月予測)	2018/19 (10月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	4,806	4,327	4,827	5,120	5,120	6.1
サトウキビ生産量	356,871	306,070	393,320	404,434	387,983	▲ 1.4
砂糖	生産量	27,091	21,848	34,828	35,583	5.3
	輸入量	2,146	2,458	1,570	2,091	39.6
	消費量	26,784	26,568	27,540	28,083	2.0
	輸出量	3,955	2,233	4,754	3,048	▲ 25.4
	期末在庫量	8,370	3,874	7,979	17,253	90.5
	期末在庫率	31.2	14.6	29.0	61.4	54.1
						25.1 ポイント増

資料: LMC International 「Monthly Sugar Information in Major Countries, October 2018」

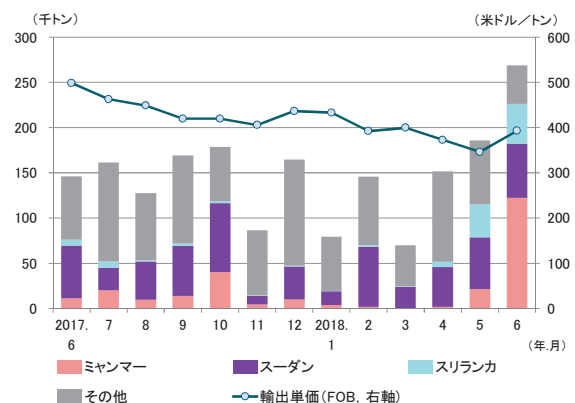
注: 期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出単価の推移

粗糖



精製糖



資料: 「Global Trade Atlas」

注: HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

中国

2018/19年度(10月～翌9月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積: 125万ha (前年度比1.1%増)
生産量: 7775万トン (同1.3%増)

【てん菜】

収穫面積: 22万ha (同20.5%増)
生産量: 1118万トン (同16.6%増)

【砂糖(甘しゅ糖およびてん菜糖)】

生産量: 1142万トン (同2.4%増)
輸入量: 645万トン (同0.8%増)

2018/19年度、砂糖生産量はわずかに増加、輸入量は横ばいで推移する見込み

2018/19砂糖年度(10月～翌9月)のサトウキビの収穫面積は125万ヘクタール(前年度比1.1%増)、生産量は7775万トン(同1.3%増)と、ともにわずかな増加が見込まれている(表4)。てん菜

の収穫面積は22万ヘクタール(同20.5%増)、生産量は1118万トン(同16.6%増)と、ともに大幅な増加が見込まれている。砂糖生産量は、良好な天候に恵まれ原料作物の増産が期待できることから、1142万トン(同2.4%増)とわずかな増加が見込まれているが、依然として消費量を大きく下回

る水準である。輸入量は、645万トン（同0.8%増）とほぼ横ばいで推移すると見込まれている。

砂糖への追加関税措置をめぐり、ブラジル政府が提訴

世界貿易機関（WTO）は10月22日、中国政府による砂糖への追加関税措置^{（注）}をめぐり、ブラジル政府が提訴する手続きに入ったと発表した。両国は、まずWTOが定める紛争処理手続きに基づき2国間協議での解決を目指す。解決できなかった場合、ブラジル政府は専門家によって審理する紛争解決小委員会（パネル）の設置を求めることができる。

これに先立ち、中国商務省の報道官は「輸入する砂糖に課している追加関税は、WTOのルール上認

められているセーフガード措置である」との認識を改めて示し、「ブラジル政府から2国間協議の要請があれば、誠実に対応する」と述べていた。

中国政府は8月以降、追加関税措置について対象となる国を限定しない運用に切り替えるなどブラジルに一定の配慮を示していた。しかし、それ以降も中国が輸入する砂糖の輸入量にあまり変化が見られなかったこともあり、ブラジル政府は今回の提訴に踏み切ったとみられる。

（注）追加関税の税率は1年目が45%、2年目が40%、3年目が35%と段階的に引き下げられることとなっている。発動した当初、開発途上国などは追加関税の適用が免除されていたが、2018年8月からすべての国が適用されることとなった。

表4 中国の砂糖需給の推移

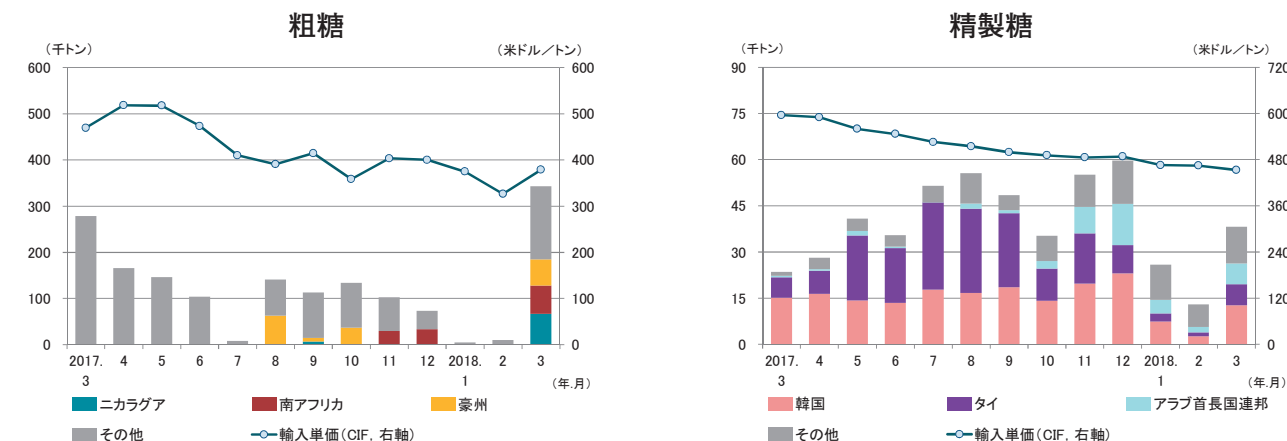
（単位：千ha、千トン、%）

年度	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19 (9月予測)	2018/19 (10月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	1,311	1,178	1,231	1,245	1,245	1.1
サトウキビ生産量	74,950	73,690	76,780	77,749	77,749	1.3
てん菜収穫面積	136	168	186	224	224	20.5
てん菜生産量	6,880	8,820	9,590	11,182	11,182	16.6
砂糖	生産量	9,405	10,041	11,147	11,418	2.4
	輸入量	7,910	5,877	6,398	6,450	0.8
	消費量	16,847	16,847	16,931	17,016	0.5
	輸出量	181	146	133	154	15.8
	期末在庫量	11,926	10,851	11,332	12,030	6.2
	期末在庫率	70.8	64.4	66.9	70.7	3.8ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, October 2018」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考）中国の砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

2018/19年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】

収穫面積：172万ha（前年度比0.6%減）

生産量：1億2033万トン（同10.6%減）

【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1884万トン（同12.5%減）

輸出量：342万トン（同10.1%減）

2018/19年度、砂糖生産量、輸出量ともにかなり減少する見込み

2018/19砂糖年度（10月～翌9月）てん菜の収穫面積は172万ヘクタール（前年度比0.6%減）とほぼ横ばいで推移すると見込まれているが、生産量は1億2033万トン（同10.6%減）とかなりの減少が見込まれている（表5）。これにより、砂糖生産量は1884万トン（同12.5%減）、輸出量は342万トン（同10.1%減）と、ともにかなりの減少が見込まれている。

欧州委員会、砂糖および異性化糖の短期的需給見通しを公表

欧州委員会は10月3日、砂糖および異性化糖の短期的需給見通しを公表した。2018/19砂糖年度の見通しについて、てん菜生産量は、春先の低温と天候不順で播種^{はしゅう}が大きく遅れたことに続き、欧州北部を中心とした深刻な干ばつにより生育が停滞した影響で、かなり減少するとの見通しが示された。これにより、砂糖の生産量と輸出量は3年ぶりに減少に転ずると見込まれている。

他方、同年度の異性化糖生産量は、2017年9月をもって生産割当が廃止されたことにより供給側の

生産意欲が高まっているものの、それに見合った需要の掘り起こしの実現に至っていない現状などから、横ばいで推移すると見込まれている。ただし、一般に異性化糖は砂糖より安価であることから、今後堅調にシェアを伸ばしていくだろうと分析しており、2023年までに異性化糖の生産量・消費量は240万トンに達する可能性があるとしている。

ポーランド政府、干ばつ被害に対する財政支援を決定

現地報道によると、EUのてん菜生産量第3位のポーランドでは、牧草地などを含め350万ヘクタールの農地が干ばつ被害を受けているとみられ、その被害額は37億ズロチ（1184億円）を超えると見積もられている。これを受け、同国政府は9月中旬、干ばつの被害を受けた生産者に対し5億ズロチ（160億円）規模の財政支援を行うことを決定した。計画では、被害の程度に応じて1ヘクタール当たり最大1000ズロチ（3万2000円）の支援金を交付するほか、低利融資や税制上の優遇措置を講ずる。9月末時点で約4万人の生産者がすでに申請を終え、申請者の約半数が被害状況について「平均収量が70%以上減少した」と回答しているという。

表5 EUの砂糖需給の推移

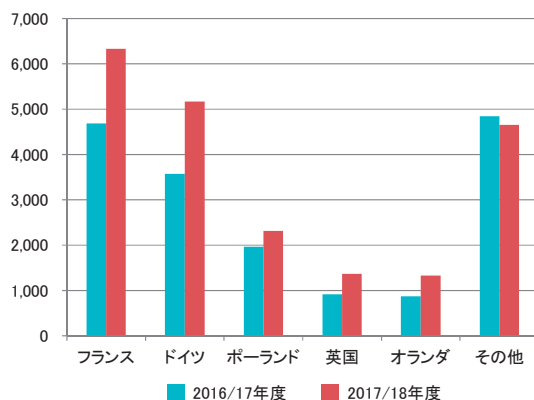
(単位: 千ha、千トン、%)

年度	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19 (9月予測)	2018/19 (10月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	1,364	1,467	1,729	1,719	1,719	▲ 0.6
てん菜生産量	94,855	108,023	134,626	121,799	120,329	▲ 10.6
砂糖	生産量	14,937	17,521	19,063	18,842	▲ 12.5
	輸入量	3,651	3,115	1,631	1,522	▲ 6.7
	消費量	19,481	19,139	18,594	18,431	▲ 0.9
	輸出量	1,501	1,510	3,805	3,422	▲ 10.1
	期末在庫量	1,913	1,901	2,672	1,183	▲ 55.7
	期末在庫率	9.8	11.9	14.4	6.4	8.0 ポイント減

資料: LMC International 「Monthly Sugar Information in Major Countries, October 2018」

注: 期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

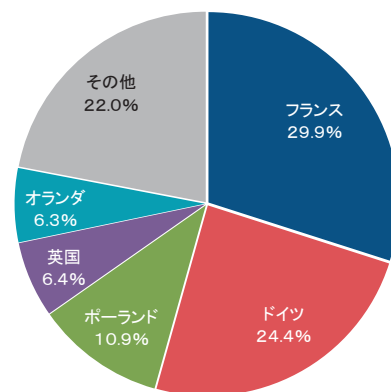
(参考) EUの主要国別砂糖生産見通しおよび生産割合 (2018年9月時点)



資料: 欧州委員会

注1: 精製糖換算。

注2: 2016/17年度は推定値、2017/18年度は予測値。



資料: 欧州委員会

注: 2017/18年度。

4. 日本の主要輸入先国の動向 (2018年10月時点予測)

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先国は、タイ、豪州、南アフリカ、フィリピン、グアテマラであったが、2017年の主要輸入先国ごとの割合は、豪州が69.5%（前年比17.3ポイント増）、タイが25.0%（同22.7ポイント減）と、この2カ国で9割以上を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州およびタイについては毎月の報告、南アフリカ、フィリピン、グアテマラについては、原則として3カ月に1回の報告とし、今回は南アフリカを報告する。本稿中の為替レートは2018年9月末日TTS相場の値であり、1タイ・バーツ=3.58円である。

豪 州

2018/19年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：39万ha（前年度比2.3%増）

生産量：3358万トン（同0.2%増）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：478万トン（同6.7%増）

輸出量：373万トン（同4.0%増）

2018/19年度、砂糖生産量はかなり、輸出量はやや増加の見込み

2018/19砂糖年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は、39万ヘクタール（前年度比2.3%増）とわずかな増加が見込まれている。生産量は、3358万トン（同0.2%増）とほぼ横ばいで推移すると見込まれている（表6）。砂糖生産量は、製糖歩留まりが良好なことから、478万トン（同6.7%増）とかなりの増加が見込まれている。これにより、輸出量は373万トン（同4.0%増）とやや増加すると見込まれている。

サトウキビの収穫作業、前年より早いペースで進む

オーストラリア砂糖生産工場連絡会（Australian Sugar Milling Council）^{（注）}によると、6月から始まったサトウキビの収穫作業は前年より早いペースで進み、10月中旬までに製糖工場で圧搾されたサトウキビの量は2641万8308トン（前年同期比3.3%増）に達し、最終的な生産量は3302万6000トンとなる見込み。また、同時点のCCS（可製糖率：サトウキビのショ糖含有率）も、14.2%（同0.6ポ

イント高）と前年より高い値で推移している。ただし、平年より気温が高く、降水量が極端に少ないため土壌が極めて乾燥しており、こうした状態が今後とも続くようであれば、来期のサトウキビ生産に影響を及ぼす可能性がある。

（注）豪州の製糖業者が加盟する団体。

豪州の生産者団体、インドの輸出補助金をめぐり声明を発表

豪州のサトウキビ生産者団体Canegrowersは、インド政府が新たな輸出支援策を決定したことを受け声明を発表し「インド政府は、自身の失策によって招いた過剰在庫のツケを国外に押し付けようとしている」と痛烈に批判した。また、「われわれは、規制緩和によって激しい競争環境にさらされてきたが、これにより効率的で高品質な砂糖を生産する手段を手に入れることができた」とも述べ、「豪州政府は、公正な貿易の確保に主導的な役割を果たさなければならず、影響を受けた他国と連携してWTOへ提訴することも視野に入れ対処すべき」と訴えた。

表6 豪州の砂糖需給の推移

(単位: 千ha、千トン、%)

年度	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19 (9月予測)	2018/19 (10月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	382	368	377	386	386	2.3
サトウキビ生産量	34,941	36,506	33,495	33,576	33,576	0.2
砂糖	生産量	4,889	4,816	4,779	4,779	6.7
	輸入量	164	67	30	29	0.0
	消費量	1,196	1,172	1,080	1,080	▲ 4.0
	輸出量	4,384	4,004	3,730	3,729	4.0
	期末在庫量	1,267	974	773	774	▲ 0.2
	期末在庫率	105.9	83.1	68.9	71.6	2.8 ポイント増

資料: LMC International 「Monthly Sugar Information in Major Countries, October 2018」

注: 期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

タイ

2018/19年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積: 179万ha（前年度比0.9%増）

生産量: 1億2720万トン（同5.7%減）

【砂糖（甘しゃ糖）】

生産量: 1464万トン（同6.1%減）

輸出量: 1345万トン（同34.7%増）

2018/19年度、砂糖生産量はかなり減少する一方、輸出量は大幅増の見込み

2018/19砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、179万ヘクタール（前年度比0.9%増）とほぼ横ばいで推移すると見込まれている。生産量は、台風の勢力が弱まった熱帯低気圧が多く通過した影響でサトウキビの倒伏、茎葉の傷みなどが発生していることから、1億2720万トン（同5.7%減）とやや減少すると見込まれている（表7）。これに伴い砂糖生産量は、1464万トン（同6.1%減）とかなりの減少が見込まれている。一方、輸出量については前年度のサトウキビの豊作により積み上がった過剰在庫を解消するため輸出を強化するとみられることから、1345万トン（同34.7%増）と大幅な増加が見込まれている。

政府、サトウキビ生産者に対する財政支援を決定

政府は10月10日、サトウキビの安定的な生産を確保するため、65億バーツ（232億7000万円）

規模の財政支援を行うことを決定した。具体的には、生産者がサトウキビ生産に必要な農業資材の購入に要する経費の一部を補助する。タイ工業相は、「今回の措置によって、生産者はサトウキビ1トン当たり50バーツ（179円）を受け取ることができるだろう」と述べ、来期も継続してサトウキビを生産するよう呼びかけた。また、現地報道によると、同工業相は、経営収支がマイナスになっている生産者に対し、すでにある基金を活用してその経済的損失を補償することを検討していると明らかにした。

なお、今回の決定には、政府が2016年から進める砂糖政策の大転換が深く関わる。タイでは、ブラジルからWTOに提訴されたことを受け、国内市場における砂糖の価格統制が大幅に緩和され、市場原理によって価格が決定されることとなった。しかし、昨今の国際価格の下落のあおりで国内価格が値下がりし、サトウキビ生産者からは、製糖業者から十分な分配金が得られず、再生産の確保が困難との声が上がっていた。

表7 タイの砂糖需給の推移

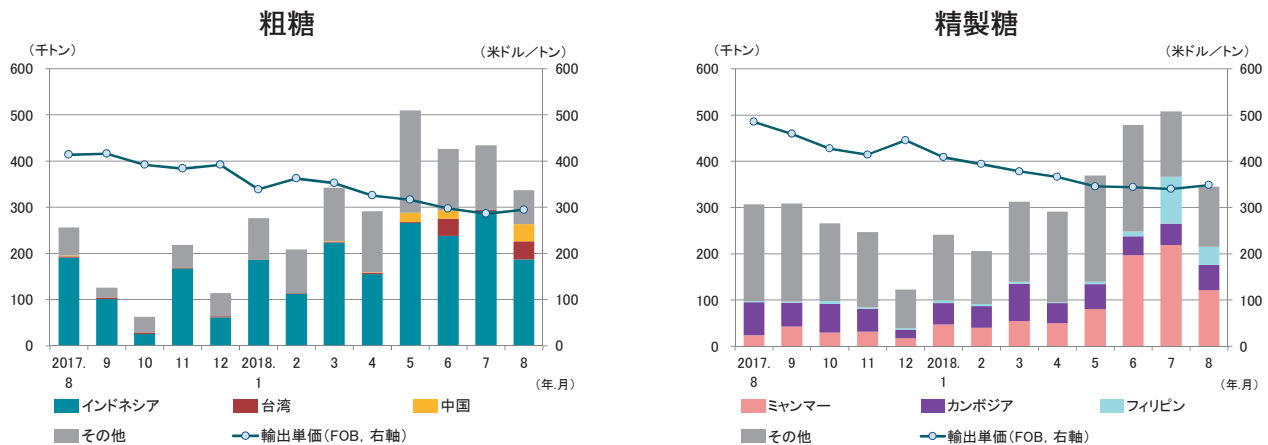
(単位: 千ha、千トン、%)

年度	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19 (9月予測)	2018/19 (10月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	1,644	1,578	1,776	1,776	1,792	0.9
サトウキビ生産量	94,047	92,951	134,929	131,451	127,200	▲ 5.7
砂糖	生産量	10,402	10,657	15,127	14,638	▲ 6.1
	輸入量	1	0	1	1	0.0
	消費量	3,272	3,283	3,505	3,294	▲ 6.0
	輸出量	7,932	7,393	9,986	13,447	34.7
	期末在庫量	3,970	3,951	6,047	3,945	▲ 34.8
	期末在庫率	121.3	120.3	172.5	119.8	52.8 ポイント減

資料: LMC International 「Monthly Sugar Information in Major Countries, October 2018」

注: 期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出単価の推移



資料: 「Global Trade Atlas」

注: HSコード1701.14 (粗糖) および1701.99 (精製糖) の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

南アフリカ

2018/19年度(4月～翌3月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積: 28万ha (前年度比1.8%増)

生産量: 1886万トン (同8.5%増)

【砂糖(甘しゅ糖)】

生産量: 229万トン (同6.3%増)

輸出量: 62万トン (同22.2%減)

2018/19年度、砂糖生産量はかなり増加する一方、輸出量は大幅に減少する見込み

2018/19砂糖年度(4月～翌3月)は、サトウキビ収穫面積は28万ヘクタール(前年度比1.8%増)、生産量は1886万トン(同8.5%増)と2年連続で増加し、深刻な干ばつの影響により落ち込んだ生産活動は急速に持ち直している(表8)。このため、

砂糖生産量は229万トン(同6.3%増)とかなりの増加が見込まれるが、輸出量は国際価格の下落により競争力が低下していることから、62万トン(同22.2%減)と大幅な減少が見込まれている。

砂糖業界、政府への不満がくすぶる

現地報道によると、2017年4月から9月までに

輸入された砂糖について、本来適用すべき税率よりも低い税率が適用され、そのうち数週間は無税で通関されていたことが判明した問題をめぐり、砂糖業界では依然として不満がくすぶっている。事態を収束するため、政府は現行の関税率を20%引き上げ、1トン当たり680米ドル（7万8200円）とすることを決定したが、南アフリカ砂糖協会（SASA）^{（注）}は「国内の生産者および製糖業者の生産を維持するには不十分だ」と反発を強めている。

同協会は、「2016年4月から9月までの砂糖の月平均輸入量は千トン未満であったが、翌年同期は

月平均4万トンに達し、2017年9月は8万トンを超えた。しかも、その輸入された砂糖のほとんどが精製糖であった」と述べ、最終的には国内の砂糖供給量の4分の1が輸入品に置き換わったと主張している。このため、政府に対し、以前の水準まで国内産のシェアが回復するまでの間、関税を同856米ドル（9万8440円）に増額するよう求めている。

（注）南アフリカのサトウキビ生産者と製糖業者を構成員とする団体。

表8 南アフリカの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、％）

年度	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19 (10月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	245	250	275	280	1.8
サトウキビ生産量	14,861	15,075	17,388	18,863	8.5
砂糖	生産量	1,772	1,712	2,294	6.3
	輸入量	631	893	685	▲ 13.8
	消費量	2,353	2,274	2,352	2.1
	輸出量	292	225	623	▲ 22.2
	期末在庫量	349	455	306	1.4
	期末在庫率	14.8	20.0	13.0	0.1 ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, October 2018」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。